



新国立劇場

NEW
NATIONAL
THEATRE
TOKYO

新国立劇場 2025/2026 シーズンオペラ

ヴェルディ
リゴレット

Rigoletto / Giuseppe Verdi

2026年2月18日(水)～ 3月1日(日)

会場:新国立劇場オペラパレス 2025年12月7日(日) 10:00～前売開始



2023 年公演より

ヴェルディの数々の名曲が綴る 愛と呪いの復讐劇『リゴレット』

ヴェルディ中期の人気作『リゴレット』。富と権力にものを言わせ女から女へと遊び歩くマントヴァ公爵、公爵と取り巻きが遊興を尽くす裏社会で媚びを売る道化師リゴレット、その娘で純粋一途なジルダの悲劇が、劇的效果に満ちた音楽と緊張感の中で繰り広げられます。オペラファンでなくてもつい口をついて出てしまう有名曲「女心の歌」をはじめ、「慕わしき人の名は」「悪魔め、鬼め！」など数々の名アリアも満載。重唱の美しさも特筆されます。エミリオ・サージの演出は登場人物の孤独にクローズアップし、それぞれの役がより個性を増すのも見どころのひとつです。美しく象徴的な舞台美術も印象的。ヴェルディならではの力強く情熱的な音楽が、清らかな純愛と娘を弄ばれた父の悲劇を劇的に描く観る者の心を動かす傑作オペラです。

ストヤノフ×中村恵理×ブラウンリー！最高の布陣がオペラパレスに勢揃い！

注目のリゴレット役にはヴェルディ・バリトンとして世界に名を馳せるウラディーミル・ストヤノフが登場。ジルダには同役を得意とする中村恵理、マントヴァ公爵にはテノールのスター、ローレンス・ブラウンリーが出演し、イタリア・オペラの名手ダニエレ・カッレガーリの指揮のもと、声の饗宴を繰り広げます。

< 資料のご請求、取材のお問い合わせ >

新国立劇場 制作部オペラ 広報担当: 上西洋子

Tel: 03-5352-5733 / Fax: 03-5352-5709 / E-Mail: uenishi_y0063@nntt.jac.go.jp

ヴェルディ不滅の傑作『リゴレット』！2026年2月、待望の再演！



ヴェルディ中期の傑作にして人気作『リゴレット』。演劇と音楽の融合を目指していたヴェルディが円熟を迎えた時期の傑作で、深い絆で結ばれた父娘の悲劇が、演劇的な緊張感と劇的効果満点の音楽で綴られます。遊び人マントヴァ公爵に仕える道化師リゴレットは、公爵と廷臣たちが遊興を尽くす裏社会で媚びを売る生活。他ならぬ娘が公爵に弄ばれ、公爵への復讐を決意するものの、公爵を愛してしまった娘は殺し屋の前に身代わりとなって身を差し出す——。ヒット曲「女心の歌」をはじめ、「慕わしき人の名は」「悪魔め、鬼め！」など数々の名アリアで彩られる一方、美しい重唱が多いのも『リゴレット』の魅力。なかでも第3幕の四重唱「美しい恋の乙女よ」

は、オペラ史上最も美しい四重唱と言われています。ヴェルディによるオペラ化に不満を抱いていた原作者ヴィクトル・ユーゴーも、初演でこの四重唱に魅了され、一夜にしてヴェルディファンになったというエピソードも残っています。

エミリオ・サージ演出は現代的な視点で作品の演劇性と登場人物の孤独とにクローズアップし、それぞれの役をより際立たせます。シンプルでありながら、美しい舞台美術や衣装も印象的で物語をストレートに伝えます。

2022/2023 シーズンに新制作し、大反響を巻き起こした『リゴレット』の再演にご期待ください。



リゴレットにストヤノフ、娘ジルダに中村恵理、マントヴァ公爵にブラウンリー。 スター歌手による声の饗宴『リゴレット』



V.ストヤノフ



中村恵理



L.ブラウンリー

驚異的な高音の持ち主で世界最高峰のベルカント・テノールとして活躍を続けるローレンス・ブラウンリーが登場。今年5月の『セビリアの理髪師』アルマヴィーヴァ伯爵で、見事な歌声を披露し、大喝采を浴びたばかりのブラウンリーの嬉しい再登場です。

殺し屋スパラフチーレに斉木健詞、リゴレットを呪うモンテローネ伯爵に友清崇、女声陣には清水華澄、谷口睦美ら日本屈指の歌手たちも贅沢に集結。イタリア・オペラの名手ダニエレ・カッレガーリの指揮のもと、声の饗宴を繰り広げます。オペラファンには絶対に見逃せない強力な布陣で、ヴェルディの大悲劇をお届けします。

道化師リゴレットは公爵にへつらう卑屈さと傲慢さ、冷酷さと娘への慈愛、恐れと怒りの深い表現が求められる難役。ヴェルディ・バリトンとして世界に名を馳せ、圧倒的な人気を誇るウラディーミル・ストヤノフが9年ぶりに登場します。ジルダには叙情的な声と高度なコントロール技術、そして心揺さぶるドラマティックな感情表現で魅了する日本が誇るソプラノ中村恵理。

マントヴァ公爵には驚



左上よりD.カッレガーリ、E.サージ、V.ストヤノフ、中村恵理、L.ブラウンリー、斉木健詞、清水華澄、友清崇

<あらすじ>

16世紀北イタリア。放蕩者のマントヴァ公爵に仕える道化師リゴレットは、皆の嫌われ者。娘を公爵に弄ばれたモンテローネ伯爵は、嘲るリゴレットを呪う。一方リゴレットの一人娘ジルダは、身分を偽ったマントヴァ公爵に恋をしてしまう。リゴレットに恨みを持つ廷臣達によって、娘が公爵に差し出されたことを知ったリゴレットは半狂乱で殺し屋に公爵殺害を依頼するが、公爵を愛し続けるジルダが刃の前にその身をさらす。

新国立劇場『リゴレット』ダイジェスト映像

<https://www.youtube.com/watch?v=O-2Yi3-Ug4Y>



<主要キャスト・スタッフプロフィール>

【指揮】ダニエレ・カッレガーリ

Daniele CALLEGARI

ミラノ生まれ。ミラノ・スカラ座管弦楽団メンバーとして数々の著名指揮者のもとで演奏した後、ジュゼッペ・ヴェルディ音楽院を指揮と作曲で卒業。1998年～2001年ウェックスフォード・オペラ・フェスティバル、02～08年ロイヤル・フランダース・フィル首席指揮者、21～23年ニース・オペラ管弦楽団首席指揮者を歴任。イタリア・オペラから現代作品の世界初演まで手がけ、メトロポリタン歌劇場『ナブッコ』『椿姫』『イル・トロヴァトーレ』『ラ・ジョコンダ』、スカラ座『トゥーランドット』『イル・トロヴァトーレ』『リゴレット』などを筆頭に、パリ・オペラ座、ベルリン州立歌劇場、ウィーン国立歌劇場、バイエルン州立歌劇場、モンテカルロ歌劇場、サンフランシスコ・オペラなど世界の主要歌劇場やコンサートホールで活躍。最近では、スウェーデン王立歌劇場、トル・デル・ラーゴ・ブッチーニ音楽祭『トスカ』、ナポリ・サン・カルロ歌劇場『ルイザ・ミラー』、ハンブルク州立歌劇場『カヴァレリア・ルスティカーナ／道化師』『トゥーランドット』、メトロポリタン歌劇場『ナブッコ』などを指揮している。24/25シーズンの出演にメトロポリタン歌劇場『イル・トロヴァトーレ』、ノルウェー国立オペラ『椿姫』フェニーチェ歌劇場『リゴレット』など。新国立劇場へは01年『ドン・カルロ』、08年『リゴレット』、21年『トスカ』で登場。



【演出】エミリオ・サージ

Emilio SAGI

哲学、文学、音楽学博士、オビエド名誉市民。1980年オビエドで『椿姫』を演出してデビュー。90～99年マドリッド・サルスエラ劇場監督、2001～05年マドリッド・テアトロ・レアル芸術監督、08年～15年ビルバオ・アリアガ劇場芸術監督。バロック期のサルスエラから現代オペラまで手がけ、ボローニャ歌劇場、フェニーチェ歌劇場、ミラノ・スカラ座、パリ・オデオン座、ローマ歌劇場、ライン・ドイツ・オペラ、フィラデルフィア・オペラ、ヒューストン・グランド・オペラ、ウィーン・フォルクスオーパー、アン・デア・ウィーン劇場、イスラエル・オペラ、ジュネーヴ大劇場、ストラスブール・ラン歌劇場、ボルドー歌劇場、マリインスキー劇場、香港オペラフェスティバル、ロッシーニ・オペラ・フェスティバル、ザルツブルク音楽祭、オビエド・カンポアモール劇場、ビルバオ・アリアガ劇場、ソフィア王妃芸術宮殿、バルセロナ・リセウ大劇場、テアトロ・レアルなどの著名劇場や音楽祭で活躍。カンポアモール・リリカル・アワード、「Ópera Actual」誌最優秀スペイン人演出家賞、アルゼンチン批評家賞などを受賞。20年スペイン政府芸術功労章受章。スペインのオペラ劇場連盟「Opera XXI」栄誉賞を受賞。新国立劇場では本プロダクションのほか『運命の力』を演出している。



【リゴレット】ウラディーミル・ストヤノフ(バリトン)

Vladimir STOYANOV

今日のオペラ界を代表するバリトンの一人。ブルガリア・ペルニク出身。1996年にソフィアでデビューし、98年にナポリ・サン・カルロ歌劇場『マクベス』でイタリアデビュー。ミラノ・スカラ座、ベルリン州立歌劇場、ウィーン国立歌劇場、ベルリン・ドイツ・オペラ、チューリヒ歌劇場などに『運命の力』『椿姫』『マクベス』『ドン・カルロ』『ルチア』などで出演。08年メトロポリタン歌劇場へデビュー。近年では、英国ロイヤルオペラ『椿姫』、ブレゲンツ音楽祭『リゴレット』、ローマ歌劇場、バイエルン州立歌劇場『椿姫』、ベルリン州立歌劇場、ナポリ・サン・カルロ歌劇場、フェニーチェ歌劇場などで成功を収める。最近のハイライトに、英国ロイヤルオペラ『蝶々夫人』、ローマ歌劇場『オテロ』、フィンランド国立オペラ『シモン・ボッカネグラ』、トリノ王立歌劇場、チューリヒ歌劇場『つばめ』、バーリ・ペトルツツェリ劇場『オテロ』、ヴェローナ野外音楽祭『椿姫』、デンマーク王立歌劇場『仮面舞踏会』など。24/25シーズンは、パルマ・ヴェルディ音楽祭『レニャーノの戦い』、ヴェローナ・フィラルモニコ劇場『スティッフエリオ』、バーリ・ペトルツツェリ劇場『ドン・カルロ』、トリノ王立歌劇場『スぺードの女王』、フェニーチェ歌劇場『アッティラ』などに出演。新国立劇場では17年『オテロ』イアーゴに出演した。



【ジルダ】中村恵理(ソプラノ)

NAKAMURA Eri

大阪音楽大学、同大学院修了。新国立劇場オペラ研修所第5期修了。2008年英国ロイヤルオペラにデビュー。10～16年はバイエルン州立歌劇場専属歌手となり、『フィガロの結婚』『魔笛』『ホフマン物語』『ヘンゼルとグレーテル』『ボリス・ゴドゥノフ』などに主要キャストとして出演。また、英国ロイヤルオペラ『フィガロの結婚』スザンナ、『ウェルテル』ソフィー、『トゥーランドット』リユー、『蝶々夫人』タイトルロール、ウィーン国立歌劇場、台中国家歌劇院『神々の黄昏』ヴォークリンデ、スウェーデン王立歌劇場『蝶々夫人』、イングリッシュ・ナショナル・オペラ『マリア・カラス 7つの死』、オペラ・ラーウ『シモン・ボッカネグラ』アメリア、カナディアン・オペラ・カンパニー『蝶々夫人』、ワシントン・ナショナル・オペラ、ベルリン・ドイツ・オペラなど数多く客演。12年度アリオン賞、15年度芸術選奨文部科学大臣新人賞、17年JXTG音楽賞洋楽部門奨励賞受賞。大阪音楽大学客員教授、東京音楽大学非常勤講師。新国立劇場では『フィガロの結婚』バルバリーナ、スザンナ、『イデメネオ』イーリア、『ファルスタッフ』ナンネッタ、『トゥーランドット』リユーなど出演多数。21年には『蝶々夫人』タイトルロール、22年、24年『椿姫』ヴィオレッタに出演し絶賛された。



【マントヴァ公爵】ローレンス・ブラウンリー(テノール)**Lawrence BROWNLEE**

世界最高峰の舞台で活躍し、行動主義や多様性の代弁者としてもオペラ界をリードするテノール。2001 年メトロポリタン・オペラ・ナショナル・カウンスル・オーディショングランプリ受賞。17 年インターナショナル・オペラ・アワード最優秀男声歌手など受賞多数。近年の成功作に、ミラノ・スカラ座『ドン・パスクワレ』エルネスト、シカゴ・リリック・オペラ『連隊の娘』トニオ、メトロポリタン歌劇場『魔笛』タミーノ(ロールデビュー)など。24/25 シーズンは、ボストン・リリック・オペラ『ボントの王ミトリダーテ』が絶賛されたほか、パリ・オペラ座『連隊の娘』トニオ、『清教徒』アルトゥーロ、メトロポリタン歌劇場、バイエルン州立歌劇場に出演予定。コロナウィルスの影響下で、クラシック音楽のデジタル・プログラムや人種的公正をめぐる重要な発信者となる。カンパニーと協力し各地の市民団体と共に、オペラの聴衆拡大のためのプログラムを創出。20 年 5 月にはアフリカ系アメリカ人歌手としての経験を探求する週 1 回の facebook ライブ・シリーズ「The Sitdown with LB」を開始し、21 年にはこのシリーズに、オペラの舞台裏に焦点を当てる「インサイド・ザ・インダストリー」を設けた。新国立劇場では 06 年『セビリアの理髪師』アルマヴィーヴァ伯爵、21 年『ルチア』エドガルドに出演。本年 5 月『セビリアの理髪師』アルマヴィーヴァ伯爵に出演し絶賛された。

**【スパラフチーレ】斉木健詞(バス)****SAIKI Kenji**

国立音楽大学卒業、同大学院修了。二期会オペラ研修所マスタークラス修了。文化庁派遣芸術家在外研修員としてボローニャへ留学。第 78 回日本音楽コンクール声楽部門第 3 位。二期会『ポツペアの戴冠』セネカ、『ドン・ジョヴァンニ』マゼット、騎士長、『ラ・ボエム』コッリーネ、『ナクス島のアリアドネ』トゥルファルディン、『ナブッコ』ザッカーリア、兵庫県立芸術文化センター『トスカ』スカルピア、びわ湖ホール『海賊』ジョヴァンニ、『ばらの騎士』オックス男爵、東京・春・音楽祭子どものためのワーグナー『さまよえるオランダ人』ダーラント、『パルジファル』グルネマンツ、『ニュルンベルクのマイスタージンガー』ポークナーなどに出演。新国立劇場では『カルメン』スニガ、『サロメ』2 人の兵士 2、『アイーダ』エジプト国王、『軍人たち』フォン・シュバンハイム伯爵、『タンホイザーとヴァルトブルクの歌合戦』ラインマル、高校生のためのオペラ鑑賞教室 2025 ロームシアター京都公演『魔笛』ザラストロに出演。25/26 シーズンは『リゴレット』スパラフチーレ、『エレクトラ』オレストの養育者に出演予定。二期会会員。

**【マッダレーナ】清水華澄(メゾソプラノ)****SHIMIZU Kasumi**

国立音楽大学卒業、同大学院修了。新国立劇場オペラ研修所第 4 期修了。文化庁派遣在外研修員、ロームミュージックファンデーション在外研究員としてイタリアに留学。2007 年第 6 回カルロ・ゴメス国際コンクール第 2 位。二期会『仮面舞踏会』ウルリカ、『アイーダ』アムネリス、『フィガロの結婚』マルチェリーナ、『カヴァレリア・ルスティカーナ』サントウツァ、『ドン・カルロ』エボリ公女、『イル・トロヴァトーレ』アズチーナ、『ローエングリン』オルトルート、『サロメ』ヘロディアス、札幌文化芸術劇場ほかのグランドオペラ共同制作『アイーダ』アムネリス、兵庫県立芸術文化センター『蝶々夫人』スズキなどで好評を博す。新国立劇場では『ワルキューレ』グリムゲルデ、『神々の黄昏』第二のノルン、『チェネントラ』ティーズベ、『オテロ』エミーリア、『ラインの黄金』フロスヒルデ、『アンドレア・シェニエ』ベルシ、高校生のためのオペラ鑑賞教室『カルメン』タイトルロール、『アイーダ』(コンサート形式)アムネリス、『ボリス・ゴドゥノフ』女主人、『リゴレット』マッダレーナなどに出演。25/26 シーズンは『リゴレット』マッダレーナ、『エレクトラ』第 3 の下女に出演予定。二期会会員。

**【モンテローネ伯爵】友清 崇(バリトン)****TOMOKIYO Takashi**

桐朋学園大学声楽科卒業、同研究科修了。二期会オペラ研修所マスタークラス修了。ウィーン国立音楽大学研究課程声楽科修了。第 7 回藤沢オペラコンクール第 2 位受賞、第 77 回日本音楽コンクール入選。これまでに二期会『カブリッチョ』オリヴィエ、『魔笛』パパゲーノ、『サロメ』ヨハナーン、『パルジファル』クリングゾル、『トリスタンとイゾルデ』クルヴェナール、『ローエングリン』王の伝令、『フィデリオ』ドン・ピツァロ、『影のない女』伝令使、シャルル・デュトワ指揮『サロメ』ヨハナーン、東京・春・音楽祭子どものためのワーグナー『さまよえるオランダ人』タイトルロール、『パルジファル』クリングゾル、『ニュルンベルクのマイスタージンガー』ザックスなどに出演している。新国立劇場では鑑賞教室『トスカ』アンジェロッティ、『ジークフリート』ハイライトコンサート、『リゴレット』マルツォに出演。二期会会員。



新国立劇場 2025/2026 シーズンオペラ

ジュゼッペ・ヴェルディ

リゴレット

Rigoletto / Giuseppe Verdi

全 3 幕〈イタリア語上演／日本語及び英語字幕付〉

【公演日程】 2026 年 2 月 18 日(水)18:00／21 日(土)14:00／23 日(月・祝)14:00／26 日(木)14:00／3 月 1 日(日)14:00

【会場】新国立劇場 オペラパレス

【チケット料金】 S:29,700 円・A:24,200 円・B:17,600 円・C:11,000 円・D:7,700 円・Z:1,650 円

【前売開始】 2025 年 12 月 7 日(日)10:00～

※予定上演時間 約 2 時間 40 分(休憩含む)

指揮	ダニエレ・カッレガーリ	リゴレット.....	ウラディーミル・ストヤノフ
Conductor	Daniele CALLEGARI	Rigoletto	Vladimir STOYANOV
演出	エミリオ・サージ	ジルダ	中村恵理
Production	Emilio SAGI	Gilda	NAKAMURA Eri
美術	リカルド・サンチェス・クエルダ	マントヴァ公爵	ローレンス・ブラウンリー
Set Design	Ricardo SÁNCHEZ CUERDA	Il duca di Mantova	Lawrence BROWNLEE
衣裳	ミゲル・クレスピ	スパラフチャーレ	斉木健詞
Costume Design	Miguel CRESPI	Sparafucile	SAIKI Kenji
照明	エドゥアルド・ブラーボ	マッダレーナ	清水華澄
Lighting Design	Eduardo BRAVO	Maddalena	SHIMIZU Kasumi
振付	ヌリア・カステホン	モンテローネ伯爵	友清 崇
Choreographer	Nuria CASTEJÓN	Il conte di Monterone	TOMOKIYO Takashi
再演出	澤田康子	ジョヴァンナ	谷口睦美
Revival Director	SAWADA Yasuko	Giovanna	TANIGUCHI Mutsumi
		マルッロ	成田博之
		Marullo	NARITA Hiroyuki
		ボルサ	糸賀修平
		Borsa	ITOGA Shuhei
		チェブラーノ伯爵	吉川健一
		Il conte di Ceprano	YOSHIKAWA Kenichi
		チェブラーノ伯爵夫人	十合翔子
		La Contessa di Ceprano	SOGO Shoko
		小姓	網永悠里
		Paggio	AMINAGA Yuri
		牢番	三戸大久
		Un usciere	SANNOHE Hirohisa

合唱指揮	三澤洋史
Chorus Master	MISAWA Hirofumi
合唱	新国立劇場合唱団
Chorus	New National Theatre Chorus
管弦楽	東京交響楽団
Orchestra	Tokyo Symphony Orchestra

芸術監督	大野和士
Artistic Director	ONO Kazushi

Production of ABAO Bilbao Opera

公演情報 WEB サイト <https://www.nntt.jac.go.jp/opera/rigoletto/>

【チケットのご予約・お問い合わせ】 新国立劇場ボックスオフィス TEL:03-5352-9999 (10:00～18:00)

新国立劇場Webボックスオフィス <https://nntt.pia.jp/>

【チケット取り扱い】チケットぴあ、イープラス、ローソンチケットほか

* 乙席 1,650 円: 公演当日朝 10 時より、新国立劇場 Web ボックスオフィスほかで販売。1 人 1 枚。電話予約不可。* 当日学生割引(50%)、ジュニア割引(20%)、高齢者割引、障害者割引、学生割引など各種割引あり。* 未就学児入場不可。

本公演はレパートリー作品です。過去の上演の舞台写真を宣材としてご提供致します。



【1】



【2】



【3】



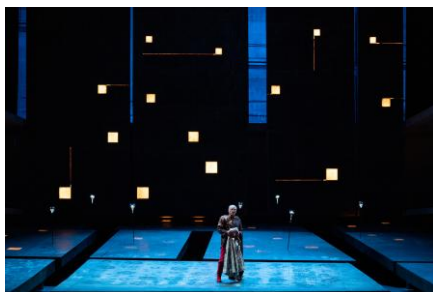
【4】



【5】



【6】



【7】



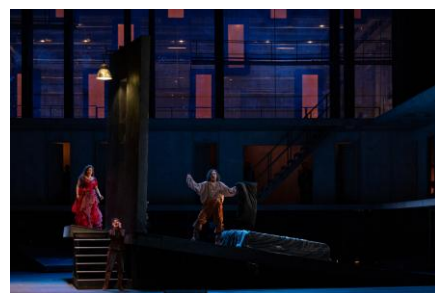
【8】



【9】



【10】



【11】



【12】

新国立劇場『リゴレット』2023 年公演より 撮影:堀田力丸